

2008年(平成20年)
10月10日(金曜日)
東京新聞より

愛媛「正論」懇話会



「集団的自衛権の行使を」

渡辺利夫・拓大学長が講演

愛媛「正論」懇話会の第15回講演会が9日、松山市の松山全日空ホテルで開かれ、拓殖大学学長の渡辺利夫氏が「東アジアと日本の国家戦略」と題して講演し、写真。中国など東アジア各国の挑戦的外交を受けてい

る現況を指摘し、「国家を守るべき日本のリーダーは安穩としすぎている」と警告した。

渡辺氏は、中国の反日カードは「天安門事件によって中国共産党が求心力を失ったがために国家統制のた

めに作られたものだ」などと背景を説明し、「危急存亡の今日にあって、日本では国民を含め『国家概念』があまりにも希薄すぎる」と述べた。

また日露戦争時の日英同盟と、戦後の日米同盟の意義を歴史的観点から分析しながら、「今後日本は安全と平和のためには日米同盟の強化が何よりも重要だ」と主張。そのためには「国際法上、持っていないが行使できないとされている集団的自衛権の解釈をただちに変更すべきだ」と強調した。